

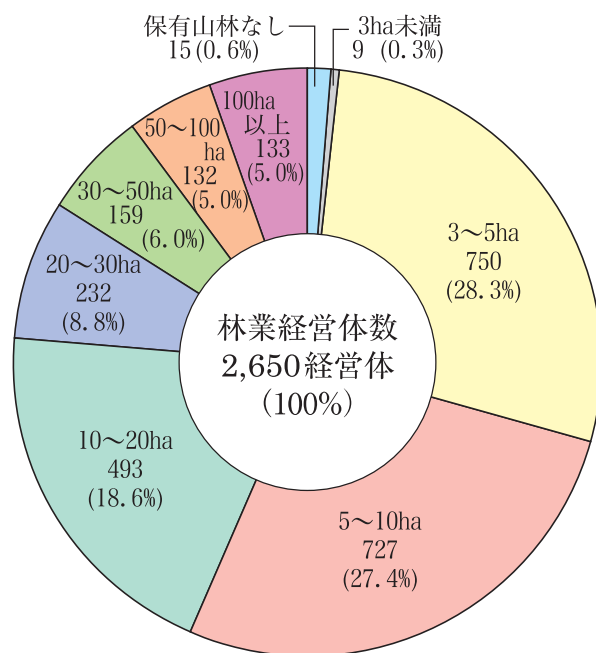
2 林 業 部 門

1) 林業を担う経営体（林業経営体）

本県の林業経営体数は、2,650経営体となっており、保有山林規模別では、10ha以下の経営体が総数の56%を占め、規模の小さな経営体が多い。

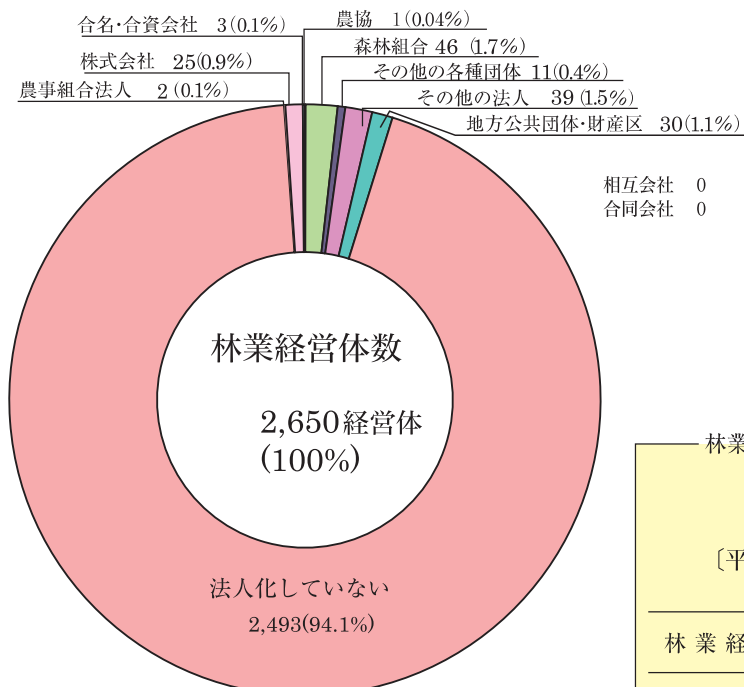
また、組織形態別では、法人化していない経営体が94%を占めている。

保有山林規模別林業経営体数



(2010年世界農林業センサス)

組織形態別経営体数



(2010年世界農林業センサス)

林業経営体数

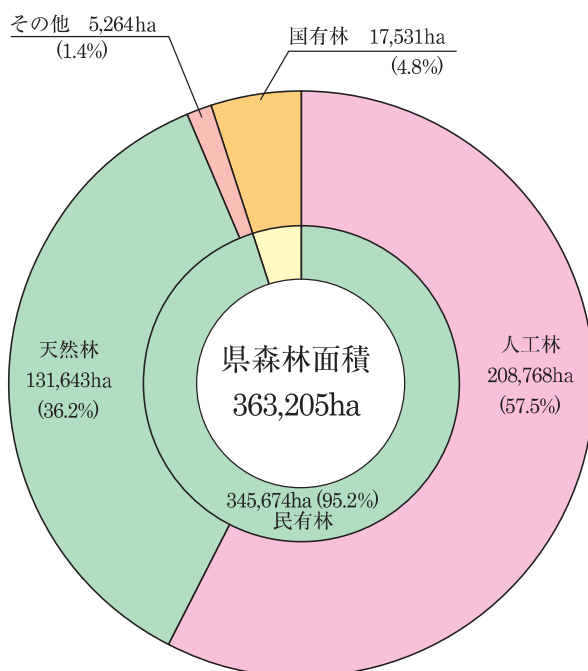
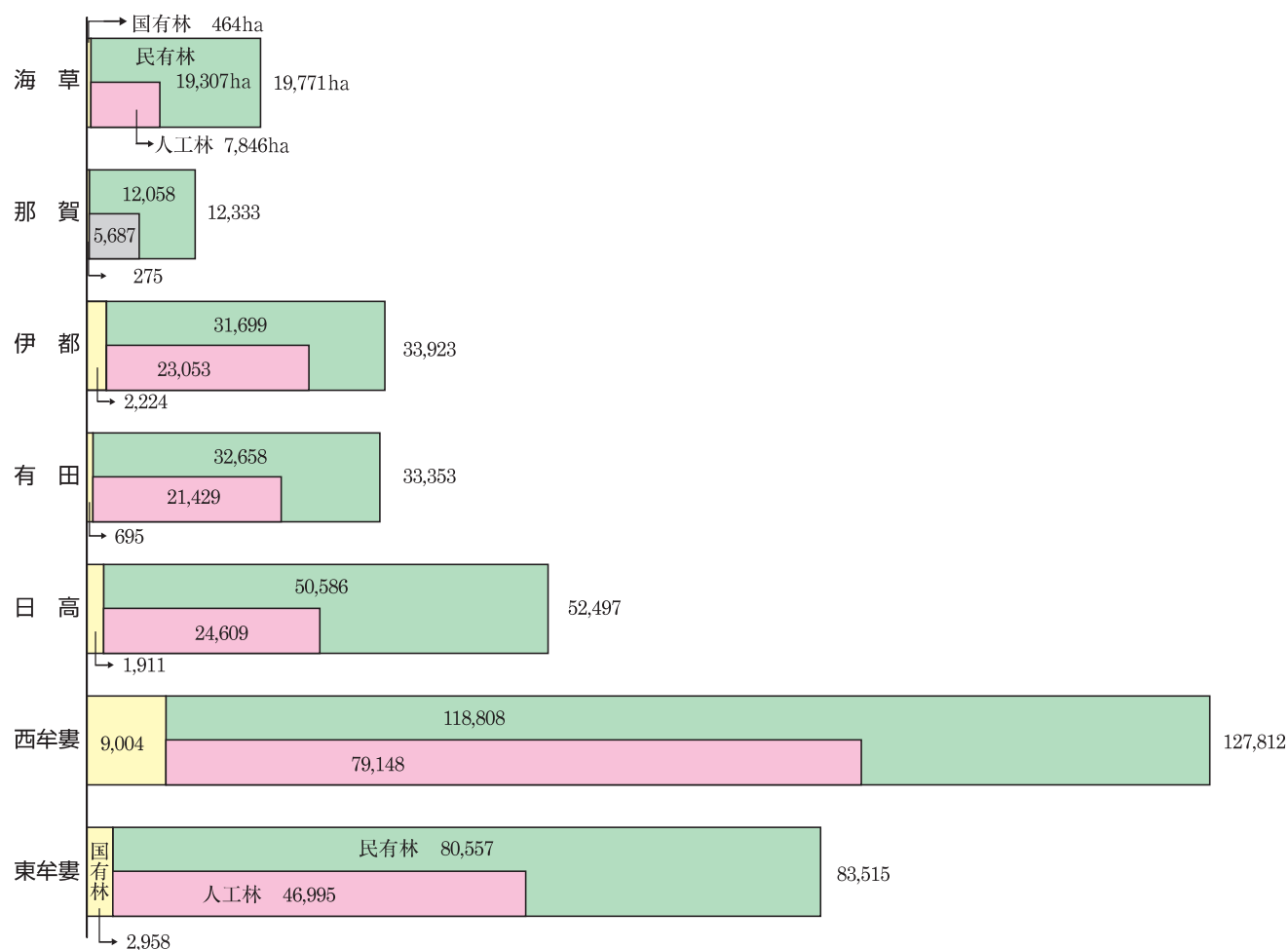
〔平22〕	全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位
	実 数	実数	順位	シェア %	県名	県名
林 業 経 営 体 数	140,186	2,650	24	1.9	北海道	岩 手 岐 阜

(2010年世界農林業センサス)

2) 森林資源・林業生産基盤

郡別・森林面積（平23.4.1現在）

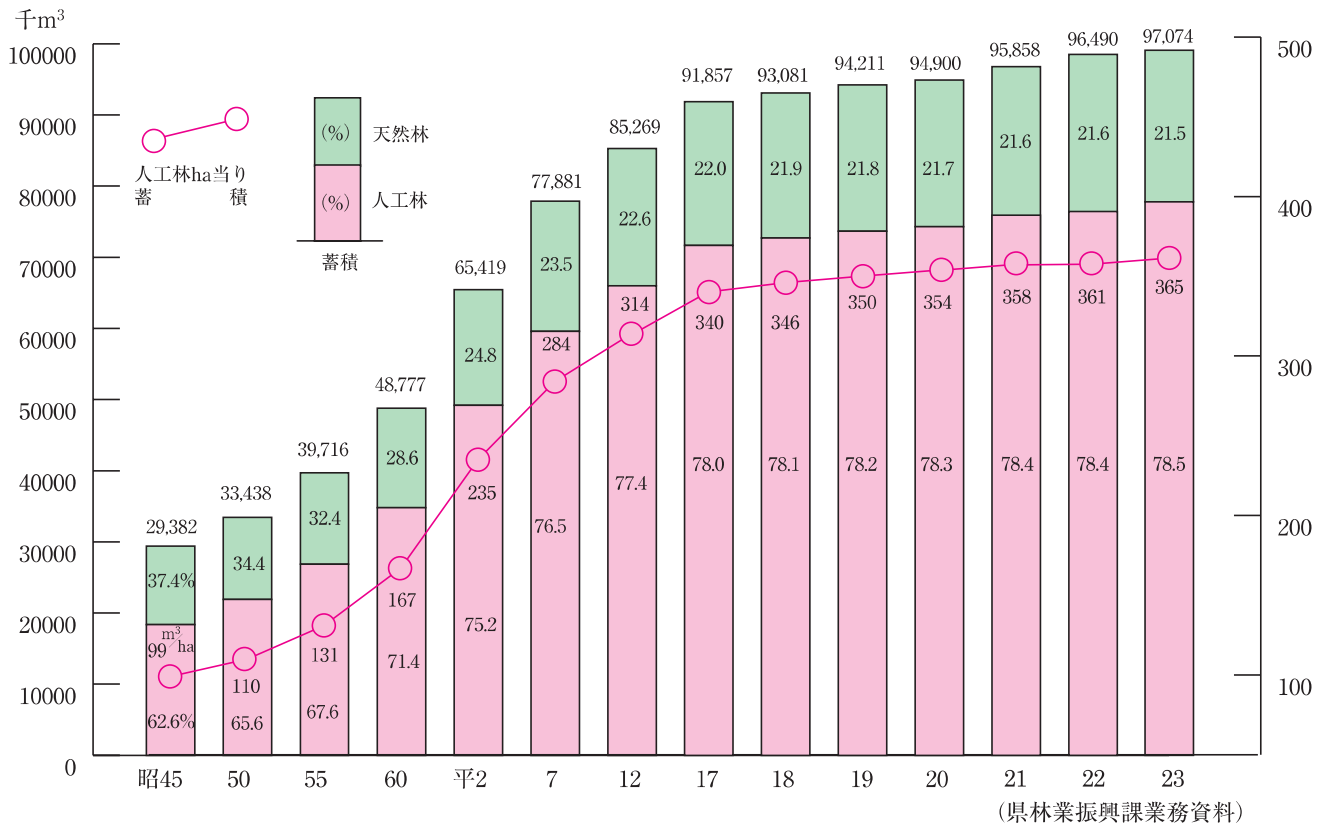
県の森林面積363,205haのうち、国有林は4.8%、民有林は95.2%で、民有林のうち、人工林は57.5%である。



(県林業振興課業務資料)

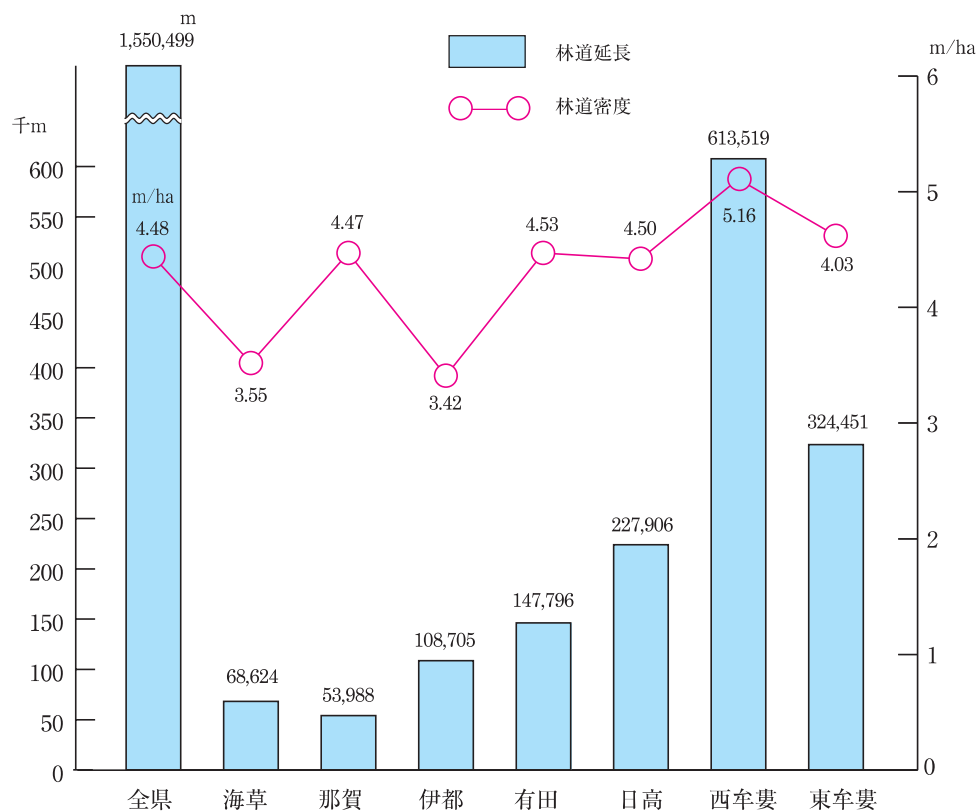
森林資源（民有林蓄積）の推移（地域森林計画対象森林：345,142ha）

戦後植林された森林資源が成熟しつつある。



郡別民有林林道延長及び林道密度（平22.3.31現在）

生産コストの縮減をはかるため、林道密度を高める必要がある。

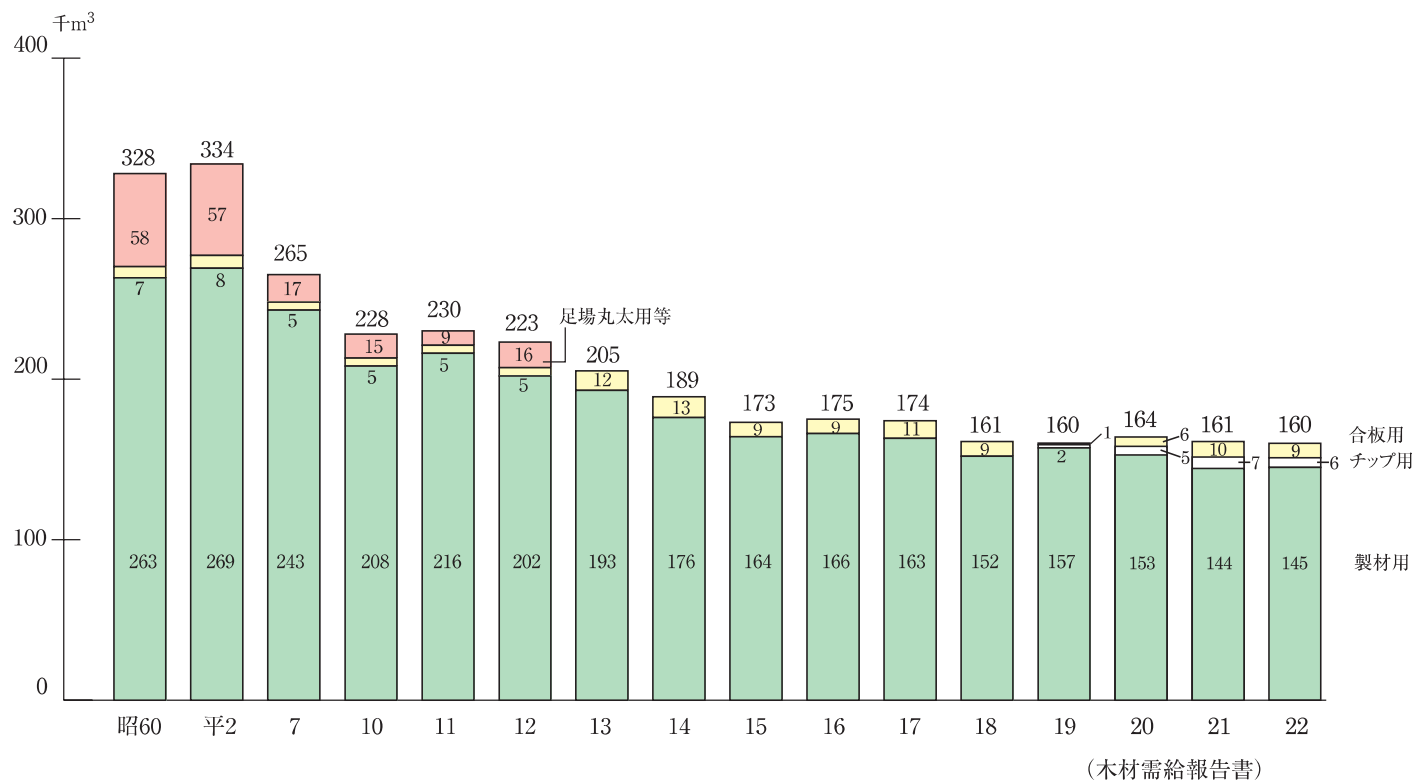


(県林業振興課業務資料 平成22年3月31日現在)

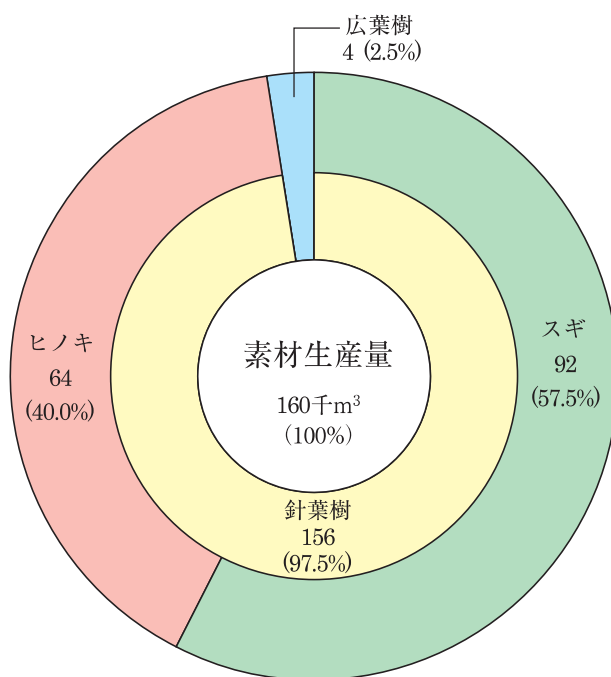
3) 林業生産

近年の木材生産活動は木材価格の低迷等から停滞している。
一方、最近では輸入製品価格の高騰などから、国産材の需要が高まりつつある。

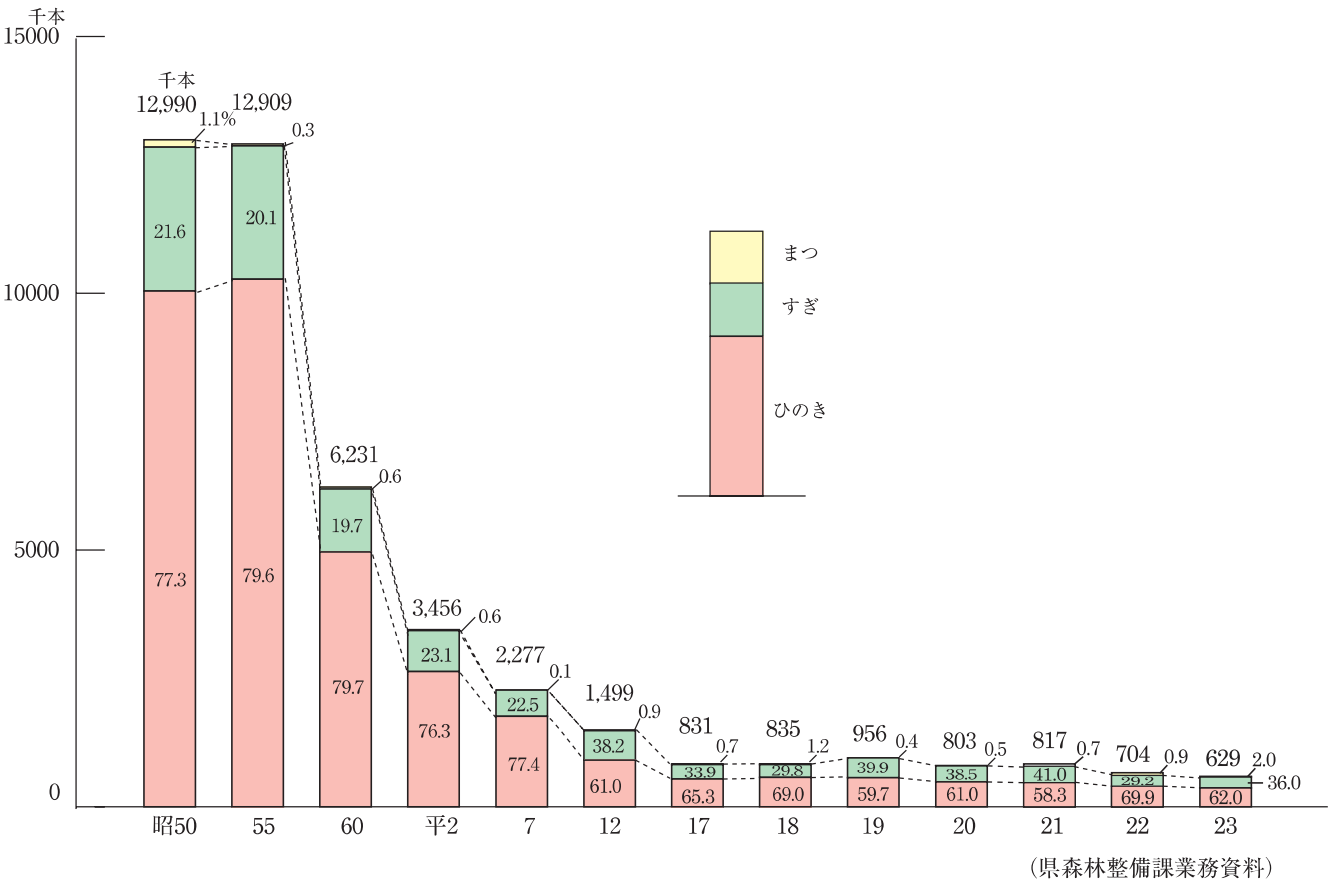
用途別素材生産量の推移



樹種別素材生産量 (平22)



山用種苗生産本数の推移

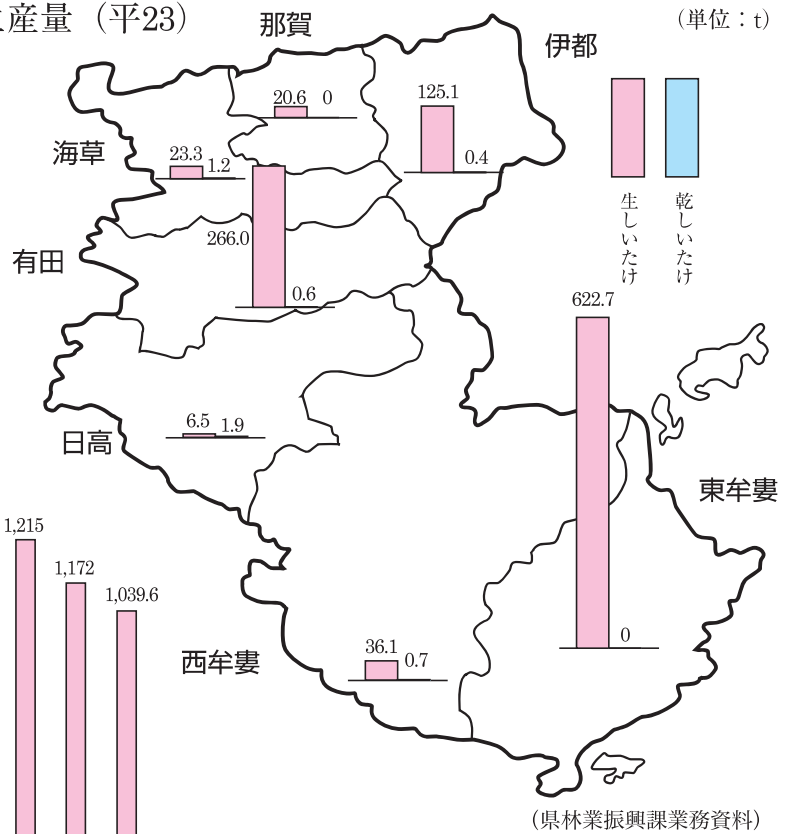


素 材 生 産 量

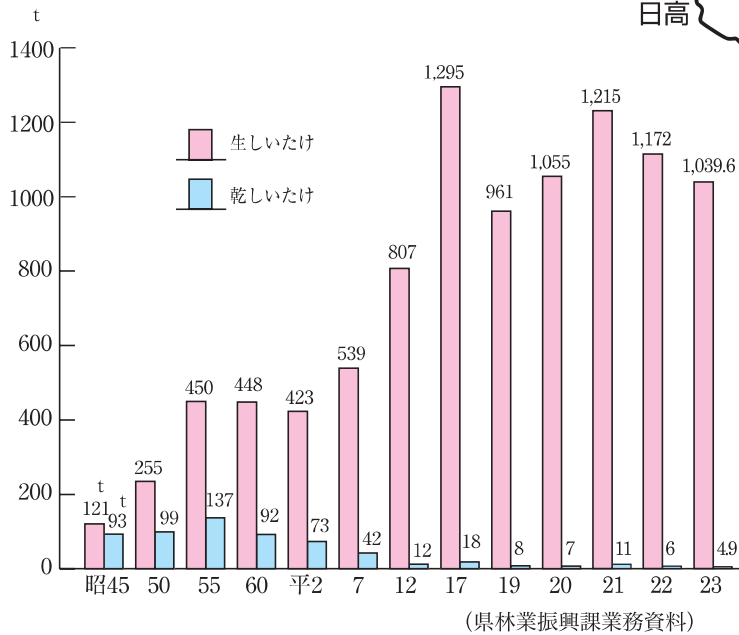
〔平22〕		全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位
		実 数	実 数	順 位	シェア(%)	県名	県名
素 材 生 産 量	合 計(千m ³)	17,193	160	28	0.9	北海道	宮 崎
	針 葉 樹	14,789	156	26	1.1	北海道	宮 崎
	す ぎ	9,049	92	29	1.0	宮 崎	秋 田
	ひ の き	2,029	64	13	3.2	愛 媛	岡 山
	広 葉 樹	2,404	4	41	0.2	北海道	岩 手

郡別・しいたけ生産量（平23）

（単位：t）

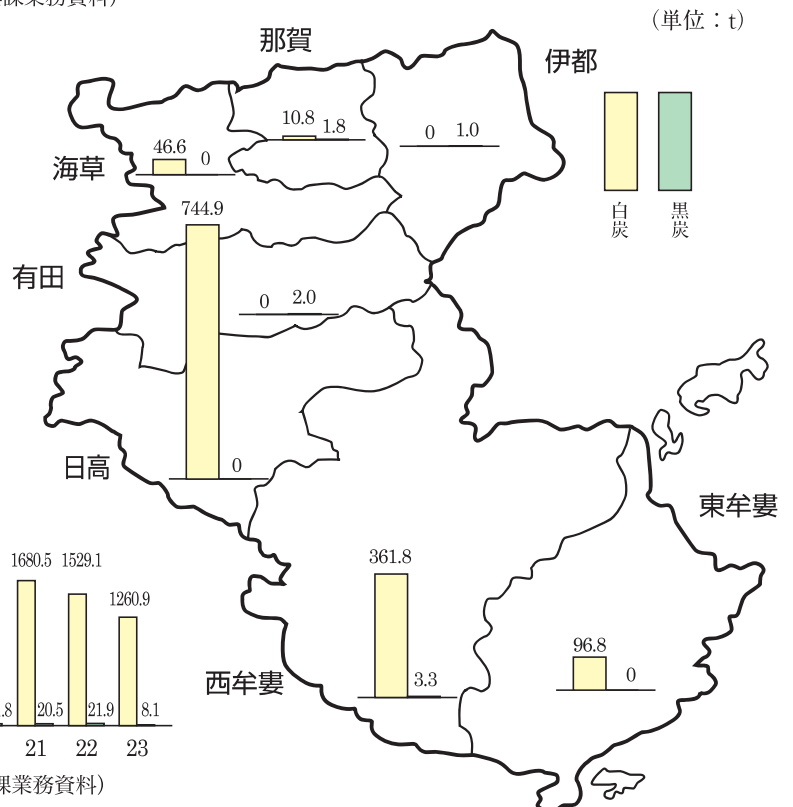


しいたけ生産量の推移

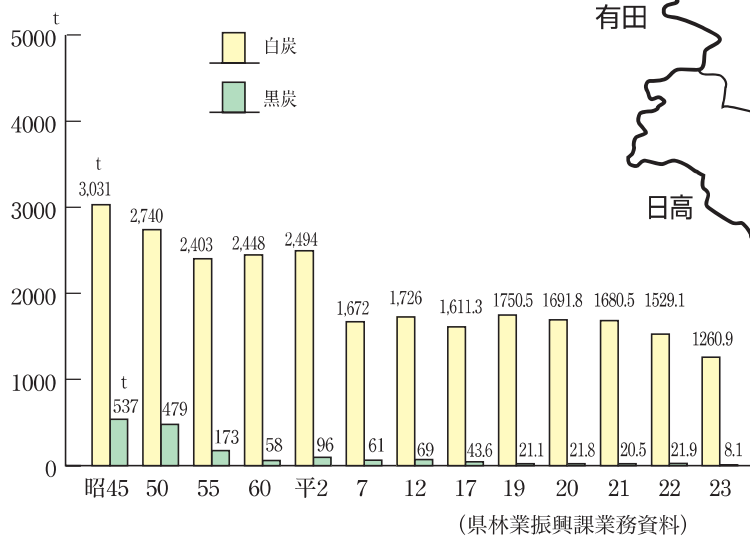


郡別・木炭生産量（平23）

（単位：t）

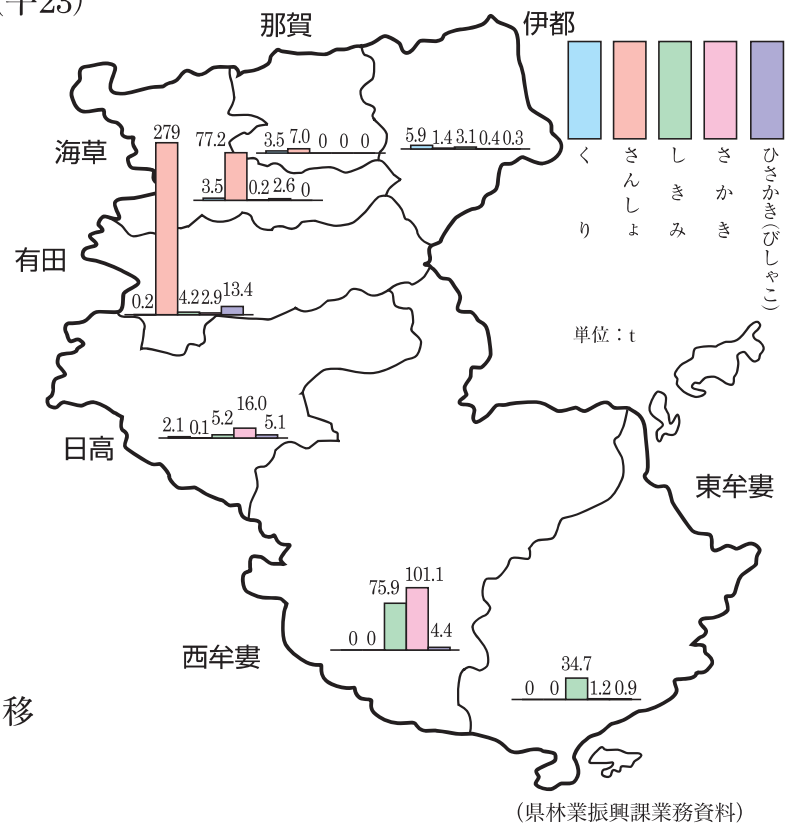


木炭生産量の推移

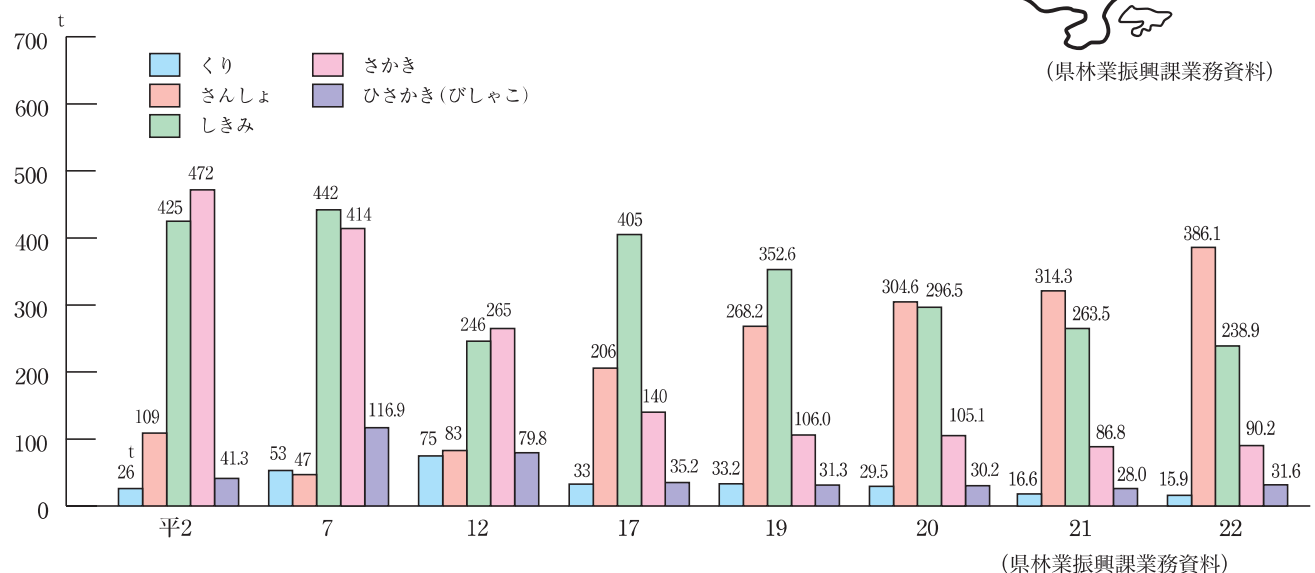


山村での主収入であった林業が低迷する中、副収入源であった特用林産物の収入に占める割合が増加してきた。

郡別・その他特用林産物生産量（平23）



その他の特用林産物生産量の推移

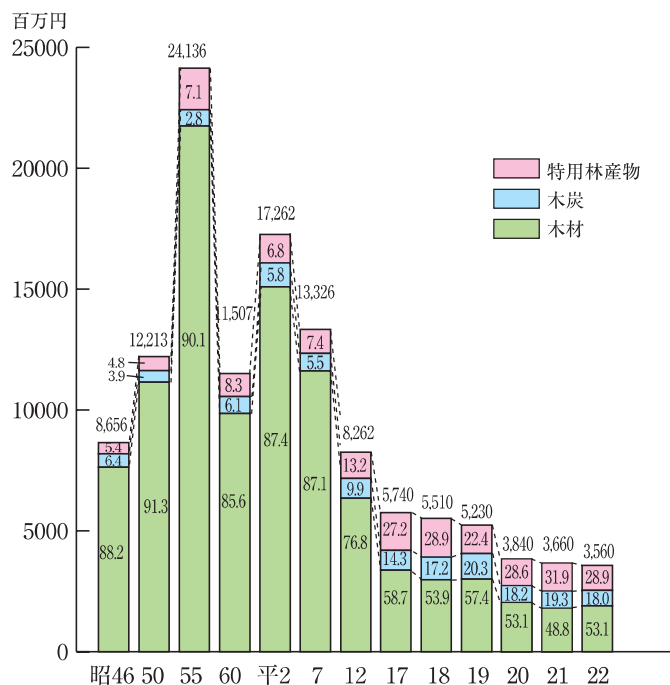


特 用 林 産 物 生 産 量							
〔平22〕 (t)	全 国	和 歌 山 県			1 位	2 位	3 位
	実 数	実 数	順 位	シェア(%)	県名	県名	県名
乾しいたけ	3,516.3	6.3	35	0.2	大 分	宮 崎	熊 本
生しいたけ	77,079.0	1,171.6	19	1.5	徳 島	岩 手	北 海 道
白 炭	3,421.4	1,529.1	1	44.7	和歌山	宮 崎	高 知
黒 炭	10,326.4	21.9	43	0.2	岩 手	大 分	高 知

4) 林業所得と林業産出額

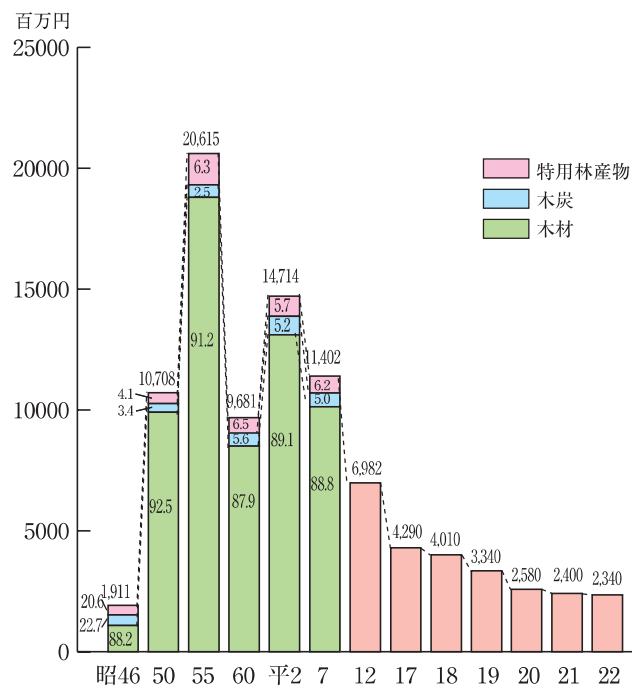
素材価格がピークであった昭和55年を契機に年々減少してきている。

林業産出額の推移



(生産林業所得統計報告書)

生産林業所得額の推移



(生産林業所得統計報告書)

※H10から内訳の計上がされていない

※枠内の数字はパーセントを表す

生産額

〔平22〕 (千万円)		全 国	和 歌 山 県		1 位	2 位	3 位
		実 数	実 数	順 位	シェア(%)	県名	県名
林 業	総 計	42,169	356	29	0.8	長 野	北 海 道
	産 出 額						
	木材生産	19,455	189	27	1.0	北 海 道	宮 崎
生産林業所得	総 計	22,550	234	29	1.0	長 野	北 海 道